



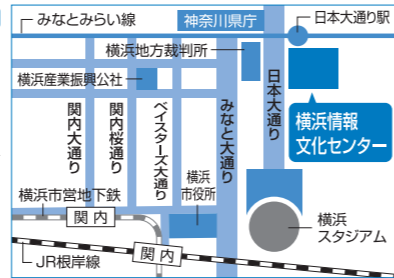
●ご参加ご希望の方は、事前にお申込みをお願いします。(フォーラム、交流会とも) ホームページの「参加お申込みフォーム」で、ご参加のお申込みをされる場合は、お名前、連絡先をご記入ください。なお、FAXと電話でも受け付けています。お電話でお申込みの場合は、午前10時から午後5時の間をお願いします。

※お客様より参加申し込みの際にご記入いただいた個人情報は、今回の参加受付処理とフェスティバル情報のご案内をさせていただく目的のみに使用させていただきます。個人情報を第三者に提供または開示することはありません。今後個人情報は、TVFに関する発表会・上映会等のご案内をさせていただくために継続して利用致します。ご不要になりましたら、TVF事務局までご連絡下さい。

主催 / 日本ビクター株式会社 TVF事務局
 後援 / 横浜市 開港150周年・創造都市事業本部
 協力 / ヨコハマEIZONE実行委員会、横浜市
 学校視聴覚教育連絡協議会、日本工学院
 専門学校、情報科学専門学校、湘南
 映像祭、日本教育新聞社、玄光社「ビ
 デオサロン」、市民ビデオ研究会

★会場のご案内

- 交通アクセス**
- みなとみらい線「日本大通り駅」
情文センター口 0分
 - JR・横浜市営地下鉄「関内駅」
徒歩10分
 - 横浜市営バス「日本大通り駅
県庁前」バス停 徒歩1分
 - 横浜駅東口バスターミナル
(横浜そごう1階)より
〈8・58系統〉乗車15分
 - 桜木町駅バスターミナルより
〈8・11・58系統〉乗車10分



学校現場における映像づくりの狙いのひとつに“グループでの取り組み”があります。数名の子どもたちがひと組になり、企画から撮影、そして編集作業を行います。その過程で持ち上がる数々の問題に対して、協力しあえるか、アイデアを出せるか——といった乗り越えるための努力が求められます。完成を目指し、それぞれが自分の役割をきちんと果たす、こうしたプロセスを踏むことが大きな魅力です。この他、積極性の増長、視野の拡大など、見逃すことができない様々な学習効果を内包している映像づくりについて、これからの学校教育で果たせる役割を皆様と一緒に考えます。

映像づくりで始まる 新しい学校教育

TVF30年記念イベントのご案内

TVFは、映像作品を〈発表する〉場はもちろん、
 作品を〈観る〉、作品から〈学ぶ〉、作品を〈創る〉、作者と〈交流する〉
 という新しい展開を広げていきます。

アップルジャパンと連携した初のハード/ソフト実践教室
映像教育実践ワークショップ

日時 / 8月5日(火)・6日(水) (2日間コース)
 会場 / 東京オペラシティ32階(アップルジャパン(株))
 講師 / 佐藤博昭氏 (TVF審査委員)

【概要】
 映像メディアの理解とともにメディアを使いこなすための実践
 ワークショップ。2日目はビクターのハードディスクムービーとアッ
 プルコンピュータおよび映像編集ソフトでの体験実践を組み入
 れています。

- ・映像制作の基本と実践について
- ・TVF作品にみる制作実践例
- ・映像制作・撮影と編集の実践体験

テーマ別に作品テーマや表現技術を分析
TVF市民ビデオセミナー

日時 / 9月20日(土) 14:00~17:30
 会場 / ビクター新橋ビルB1Fホール
 東京都港区新橋1-7-1
 テーマ / 社会を描く 2

(子育て、自然、環境など)
 講師 / 佐藤博昭氏 (TVF審査委員)

【概要】
 TVF入賞作品の中から作品を選んでじっ
 くりと分析。〈テーマ〉〈表現〉について、他
 では聞けない素材選びや構成といった作
 品づくりのコツがわかります。

- ▼特別講演 13:00~
■総合学習と映像づくりのすすめ方
 ゲスト / 寺脇 研氏
 (京都造形芸術大学教授、元文部科学省大臣官房審議官/文化庁文化部長)
- ▼TVF作品にみる映像制作と教育成果・課題 14:00~
 進行 / 佐藤博昭氏 (TVF審査委員)
- ▼学校現場における映像づくりの実例紹介 15:00~
 進行・コーディネーター / 下村健一氏
 (市民メディアアドバイザー、キャスター)
- ▼交流会 18:00~19:30
 参加費 2,000円(学生1,000円)

※変更になる場合がありますのでTVFホームページで最新の情報をご確認ください。

※詳しくは下記のTVFホームページをご覧ください。(順次、最新の情報を公開してまいります)

日本ビクター株式会社 TVF事務局

ホームページ <http://www.victor.co.jp/tvf/>

〒105-0004 東京都港区新橋1-7-1 ビクタービル TEL.03-3289-2815 FAX.03-3289-2819



世界最大の市民映像祭〈観る・創る・広がる〉 TVF30年 市民ビデオフォーラム

2008年 8月2日(土) 13:00~17:30 (開場は12:30より)

会場 / 横浜情報文化センター情文ホール

映像づくりを通して、考える力・解決する力を育むために

第1部 特別講演 13:00～

学校教育における総合学習の第一人者が熱く語る 「総合学習と映像づくりのすすめ方」

一人ひとりの個性を伸ばす総合学習——かつて、文部科学省のスポークスマンとして学校教育を熟知する元文部科学省大臣官房審議官 寺脇 研 氏に、将来を担う子どもたちに対する健全な育成と、映像づくりを通じた学び方・学習の在り方についてお話をいただきます。

ゲスト／寺脇 研 (京都造形芸術大学教授、元文部科学省大臣官房審議官/文化庁文化部長)



寺脇 研 (てらわきけん)

福岡県出身。東大法学部卒業後、1975年文部省入省から大臣官房広報調整官を最後に退官までの32年間、初等中等教育局職業教育課長、広島県教育長、高等教育局医学教育課長、生涯学習局生涯学習振興課長、官房政策課長、大臣官房審議官(生涯学習政策担当)、文化庁文化部長等を歴任。中でも生涯学習局の設立や生涯学習振興法成立に尽力。また、映画を通じて日韓文化交流に貢献。現在は京都造形芸術大学教授、テレビのコメンテーターとして活躍。教育・映画・落語評論まで多岐にわたり、講演でも東奔西走。「総合学習」「学校週5日制」の生みの親でもある。近著:『それでもゆとり教育は間違っていない』(扶桑社)『さらばゆとり教育』(光文社)『官僚批判』(講談社)『韓国映画ベスト100』(朝日新書)

第2部 TVF作品上映 14:00～

学校現場から発信された作品はどう進展したか 「TVF作品にみる映像制作と教育成果・課題」

TVF作品には、子どもたちが映像を使って行った数々の学習の成果が残されています。そこには学校生活や行事の記録はもとより、近年では学校ジャーナリズムやメディアリテラシーといった新しい捉え方の作品も増えています。時代の変遷の中で、映像制作の成果と課題を解説します。



進行／佐藤 博昭 (さとうひろあき)

TVF審査委員。ビデオ作家。日本工学院専門学校講師/日本大学芸術学部映像学科講師/武蔵大学社会学部講師。ビデオ作家の自主上映組織SVP2代表。1995年より農業情報チャンネルで地域ビデオリポーター養成プロジェクトを継続。06年より日本映像学会理事。共著書として『ドキュメンタリー リアルワールドに踏み込む方法』『スーパー・アバンギャルド映像術』『映画は世界を記録する』など。

第3部 事例紹介 15:00～

実際に行われている各地の事例紹介とディスカッション 「学校現場における映像づくりの実例紹介」

映像づくりは総合学習はもちろん、国語科、社会科などの教科にもユニークな試みを含め、多くの事例が各地から成果としてあがってきています。そうした学校現場で実際に携わってこられた先生や関係者に、実施の内容とその効果について紹介していただきます。進行・コーディネーターには、マス・メディアや市民メディアを熟知している下村健一氏をお迎えいたします。会場からのご質問やご意見もお聞きし、学校現場における映像づくりの有効性などを、一緒に話し合っていきたいと思います。

- ▼ 映像を使った総合学習とまちづくりとの融合 (神奈川県横浜市立滝頭小学校/まちな元気づくり支援拠点「夢たま」)
- ▼ 総合学習をきっかけとした映像制作と部活動の展開 (東京都杉並区立東原中学校)
- ▼ 地域環境問題に取り組む子どもたちの映像制作活動 (福岡県北九州市立曾根中学校)
- ▼ 地域の問題を映像を通して探求する市民ジャーナリズム (長野県大町北高等学校)
- ▼ 美術コースの必須科目となった映像メディア表現の新たな展開 (神奈川県立弥栄高等学校)
- ▼ 公共広告の手法を使った映像表現と官学協働活動 (滋賀県安曇野高等学校)

※事例内容・テーマは、一部変更になる場合があります。

進行・コーディネーター／下村 健一 (市民メディアアドバイザー、キャスター)



下村 健一 (しもむらけんいち)

1960年、東京都生まれ。市民メディアアドバイザー。キャスター。TBSテレビ「みのもんたのサタデーずぼっど」取材キャスター。東京大学法学部卒業後、TBS報道局でアナウンサー等を14年間務めた後、退社。現在は、(株)セラフに所属し市民メディアアドバイザーとして、市民グループ、学生、子どもたちの映像制作支援活動に東奔西走しつつ、テレビ、ラジオにも出演。共著書として「ジャーナリズムの可能性」「報道は何を学んだか」など。

交流会 18:00～19:30

どなたでも参加することができます。TVF審査委員やゲスト、来場者との情報交換をお楽しみいただけます。
参加費 2,000円 (学生1,000円)

ゲストおよび審査委員等の敬称は省略しています

市民による映像文化の歴史を築いてきたTVF30年の軌跡 (エポックとなった象徴的作品)

<p>「走れ! 江ノ電」 (神奈川県川崎市立御幸中学校放送部)</p> <p>1978年 市民ビデオの幕開け</p>	<p>「THIRD AVENUE: ONLY THE STRONG SURVIVE」 (津野敬子さん&Jon Alpertさん・米国)</p> <p>1980年 ビデオジャーナリズムの誕生</p>	<p>「ビデオ家庭訪問」 (山本清志さん)</p> <p>1981年 ビデオコミュニケーションの広がり</p>	<p>「破れ表紙の人生アルバム」 (河田茂さん)</p> <p>1991年 ビデオ自己史の創造</p>	<p>「韓国へ行った」 (太田慎一さん)</p> <p>1992年 市民ビデオ作家の登場</p>	<p>「テレビは何を伝えたか～松本サリン事件のテレビ報道から～」 (長野県松本美須ヶ丘高校放送部)</p> <p>1997年 メディアリテラシーの萌芽</p>	<p>「ダムの水は、いらん!」 (佐藤亮一さん)</p> <p>2002年 新たなコミュニティの胎動</p>	<p>「Rogo」 (福岡典子さん)</p> <p>2005年 市民ジャーナリズムの躍動</p>	<p>「Off To War: Chapter Two」 (Brent and Craig Renaudさん・米国)</p> <p>2007年 市民ジャーナリズムの進展</p>	<p>「漢字テストのふしぎ」 (長野県梓川高校放送部)</p> <p>2007年 横浜市後援により発表・表彰式を横浜で開催</p>	<p>「Fear no Evil」(わざと怖い怖い) (Guillermo Costanzo・アルゼンチン)</p> <p>2008年 TVF30年</p>	<p>「学びの場が消えてゆく」 (齊藤雅之さん)</p> <p>2008年 TVF30年</p>
--	--	---	---	--	---	--	--	--	---	--	--

◆世界初のVHSポータブルシステム発売
◆VHS・Cムービー発売
◆デジタルポケットムービー発売
◆パソコンによるビデオ編集始まる
◆2001年ブロードバンド本格普及
◆2004年 メセナ大賞「映像開拓賞」を受賞
◆家庭用デジタルハイビジョンビデオカメラ発売
◆フルハイビジョンハードディスクムービー発売